

水稲病害虫発生予察調査報告野帳 (標準様式)

調査年月日: 7月5日

調査場所: 岩屋

作型: キヌヒカリ ← ※早期・普通期又は品種名を記載

調査基準(病害)

葉いもち

A: 下葉は枯死し完全なスリコ症状

B: かなり病斑が見られ軽いスリコ症状を呈する

C: かなり見られる

D: 病斑がわずかに見られる

E: 病微なし

穂いもち

A: 穂首部が罹病し白穂になったもの又はこのためになんかなり不稔を起している

B: 穂首以外で一次枝梗以外が侵され枯死

E: A、B以外の穂数

紋枯病

A: 半数以上の茎が発病しほとんどが止葉から穂首まで侵され止葉が枯死の状態

B: 株の半数以上の茎が発病、病斑が止葉葉鞘まで達しているが止葉は生色である

C: 株の半数以上の茎が発病し大部分の病斑が第二葉鞘まで達している

D: 病斑が第三葉鞘まで達している

E: まったく発病を認めないまたは第四葉鞘以下の発病

縞葉枯病

A: 株のほとんどの茎が発病している

B: 株の2/3以上の茎が発病している

C: 株の1/3~2/3の茎が発病している

D: 株の1/3以下の茎が発病している

E: 発病が認められない

ばか苗病

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

もみ枯細菌病

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

病害	A	B	C	D	E	(記入方法)
葉いもち(25株)					✓	右記の調査基準に基づき該当する株数を記入
穂いもち病(5株) ※5株の中の穂数を記入	/	/	/	/	/	
紋枯病(25株)					✓	
縞葉枯病(25株)					✓	
ばか苗病(25株)		/	/	/	✓	
もみ枯細菌病(25株)		/	/	/	✓	
稲こうじ病(25株)		/	/	/	✓	
その他()						
特記事項	調査対象株以外で被害のある病害について病害名と発生の有無を記載					

虫害

すくいとり10回振	幼虫	成虫	種類名	合計
ヒメビウカ		1	/	1
セジロウカ		3	/	3
トビロウカ			/	0
ツマグロヨコバイ			/	0
すくいとり10回振	幼虫	成虫	種類名	合計
斑点米カメムシ類				0
払い落とし10株	幼虫	成虫	種類名	合計
ヒメビウカ			/	0
セジロウカ			/	0
トビロウカ			/	0
ツマグロヨコバイ			/	0
フタオビコヤガ(虫数)			/	0
見取り(25株)	虫数/つと数	被害株数		発生株率
ニカメイガ(被害株数)			/	0
イネミスゾウムシ(虫数)			/	0
イネツムシ(つと数)			/	0
コブノメイガ(つと数)			/	0
その他()			/	0
特記事項	上記以外で被害のある虫害について発生程度等を記載			

水稲病害虫発生予察調査報告野帳 (標準様式)

調査年月日: 7月5日

調査場所: 西山田

作型: きぬむすめ ← ※早期・普通期又は品種名を記載

調査基準(病害)

葉いもち

A: 下葉は枯死し完全なスリコ症状

B: かなり病斑が見られ軽いスリコ症状を呈する

C: かなり見られる

D: 病斑がわずかに見られる

E: 病微なし

穂いもち

A: 穂首部が罹病し白穂になったもの又はこのためになんかなり不稔を起している

B: 穂首以外で一次枝梗以外が侵され枯死

E: A、B以外の穂数

紋枯病

A: 半数以上の茎が発病しほとんどが止葉から穂首まで侵され止葉が枯死の状態

B: 株の半数以上の茎が発病、病斑が止葉葉鞘まで達しているが止葉は生色である

C: 株の半数以上の茎が発病し大部分の病斑が第二葉鞘まで達している

D: 病斑が第三葉鞘まで達している

E: まったく発病を認めないまたは第四葉鞘以下の発病

縞葉枯病

A: 株のほとんどの茎が発病している

B: 株の2/3以上の茎が発病している

C: 株の1/3~2/3の茎が発病している

D: 株の1/3以下の茎が発病している

E: 発病が認められない

ばか苗病

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

もみ枯細菌病

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

稲こうじ病

病害	A	B	C	D	E	(記入方法)
葉いもち(25株)					✓	右記の調査基準に基づき該当する株数を記入
穂いもち病(5株) ※5株の中の穂数を記入	/	/	/	/	/	
紋枯病(25株)					✓	
縞葉枯病(25株)					✓	
ばか苗病(25株)					✓	
もみ枯細菌病(25株)					✓	
稲こうじ病(25株)					✓	
その他()						
特記事項	調査対象株以外で被害のある病害について病害名と発生の有無を記載					

虫害

すくいとり10回振	幼虫	成虫	種類名	合計
ヒメビウカ		1	/	1
セジロウカ		3	/	3
トビロウカ			/	0
ツマグロヨコバイ	3		/	3
すくいとり10回振	幼虫	成虫	種類名	合計
斑点米カメシ類				0
払い落とし10株	幼虫	成虫	種類名	合計
ヒメビウカ			/	0
セジロウカ			/	0
トビロウカ			/	0
ツマグロヨコバイ	1		/	1
フタオビコヤガ(虫数)			/	0
見取り(25株)	虫数/つと数	被害株数		発生株率
ニカメイガ(被害株数)			/	0
イネミスゾウムシ(虫数)			/	0
イネツムシ(つと数)			/	0
コブノメイガ(つと数)			/	0
その他(ジャンボタニシ多い)			/	0
特記事項	上記以外で被害のある虫害について発生程度等を記載			

水稲病害虫発生予察調査報告野帳 (標準様式)

調査年月日: 7月5日

調査場所: 打越

作型: キヌヒカリ ← ※早期・普通期又は品種名を記載

調査基準(病害)

葉いもち

A: 下葉は枯死し完全なスリコ症状

B: かなり病斑が見られ軽いスリコ症状を呈する

C: かなり見られる

D: 病斑がわずかに見られる

E: 病微なし

穂いもち

A: 穂首部が罹病し白穂になったもの又はこのためになんかなり不稔を起している

B: 穂首以外で一次枝梗以外が侵され枯死

E: A、B以外の穂数

紋枯病

A: 半数以上の茎が発病しほとんどが止葉から穂首まで侵され止葉が枯死の状態

B: 株の半数以上の茎が発病、病斑が止葉葉鞘まで達しているが止葉は生色である

C: 株の半数以上の茎が発病し大部分の病斑が第二葉鞘まで達している

D: 病斑が第三葉鞘まで達している

E: まったく発病を認めないまたは第四葉鞘以下の発病

縞葉枯病

A: 株のほとんどの茎が発病している

B: 株の2/3以上の茎が発病している

C: 株の1/3~2/3の茎が発病している

D: 株の1/3以下の茎が発病している

E: 発病が認められない

ばか苗病

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

もみ枯細菌病

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

病害	A	B	C	D	E	(記入方法)
葉いもち(25株)					✓	右記の調査基準に基づき該当する株数を記入
穂いもち病(5株) ※5株の中の穂数を記入						
紋枯病(25株)					✓	
縞葉枯病(25株)					✓	
ばか苗病(25株)					✓	
もみ枯細菌病(25株)					✓	
稲こうじ病(25株)					✓	
その他()						
特記事項	調査対象株以外で被害のある病害について病害名と発生の有無を記載					

虫害

すくいとり10回振	幼虫	成虫	種類名	合計
ヒメビウカ				0
セジロウカ				0
トビイロウカ				0
ツマグロヨコバイ				0
すくいとり10回振	幼虫	成虫	種類名	合計
斑点米カメムシ類				0
払い落とし10株	幼虫	成虫	種類名	合計
ヒメビウカ				0
セジロウカ				0
トビイロウカ				0
ツマグロヨコバイ				0
フタオビコヤガ(虫数)				0
見取り(25株)	虫数/つと数	被害株数	発生株率	
ニカメイガ(被害株数)			0	
イネミスゾウムシ(虫数)			0	
イネツムシ(つと数)			0	
コブノメイガ(つと数)			0	
その他()			0	
特記事項	上記以外で被害のある虫害について発生程度等を記載			

水稲病害虫発生予察調査報告野帳 (標準様式)

調査年月日: 7月5日

調査場所: 三坂

作型: キヌヒカリ ← ※早期・普通期又は品種名を記載

調査基準(病害)

葉いもち

A: 下葉は枯死し完全なスリコ症状

B: かなり病斑が見られ軽いスリコ症状を呈する

C: かなり見られる

D: 病斑がわずかに見られる

E: 病微なし

穂いもち

A: 穂首部が罹病し白穂になったもの又はこのためになんかなり不稔を起している

B: 穂首以外で一次枝梗以外が侵され枯死

E: A、B以外の穂数

紋枯病

A: 半数以上の茎が発病しほとんどが止葉から穂首まで侵され止葉が枯死の状態

B: 株の半数以上の茎が発病、病斑が止葉葉鞘まで達しているが止葉は生色である

C: 株の半数以上の茎が発病し大部分の病斑が第二葉鞘まで達している

D: 病斑が第三葉鞘まで達している

E: まったく発病を認めないまたは第四葉鞘以下の発病

縞葉枯病

A: 株のほとんどの茎が発病している

B: 株の2/3以上の茎が発病している

C: 株の1/3~2/3の茎が発病している

D: 株の1/3以下の茎が発病している

E: 発病が認められない

ばか苗病

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

もみ枯細菌病

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

病害	A	B	C	D	E	(記入方法)
葉いもち(25株)				✓		右記の調査基準に基づき該当する株数を記入
穂いもち病(5株) ※5株の中の穂数を記入						
紋枯病(25株)					✓	
縞葉枯病(25株)					✓	
ばか苗病(25株)					✓	
もみ枯細菌病(25株)					✓	
稲こうじ病(25株)					✓	
その他()						
特記事項	調査対象株以外で被害のある病害について病害名と発生の有無を記載					

虫害

すくいとり10回振	幼虫	成虫	種類名	合計
ヒメビウカ				0
セジロウカ				0
トビイロウカ				0
ツマグロヨコバイ				0
すくいとり10回振	幼虫	成虫	種類名	合計
斑点米カメムシ類		3		3
払い落とし10株	幼虫	成虫	種類名	合計
ヒメビウカ				0
セジロウカ				0
トビイロウカ				0
ツマグロヨコバイ				0
フタオビコヤガ(虫数)				0
見取り(25株)	虫数/つと数	被害株数	発生株率	
ニカメイガ(被害株数)				0
イネミスゾウムシ(虫数)				0
イネツムシ(つと数)				0
コブノメイガ(つと数)				0
その他()				0
特記事項	上記以外で被害のある虫害について発生程度等を記載			

水稻病害虫発生予察調査報告野帳 (標準様式)

調査年月日: 7月5日

調査場所: 古知之庄

作型: 兵庫夢錦 ← ※早期・普通期又は品種名を記載

調査基準(病害)

葉いもち

A: 下葉は枯死し完全なスリコ症状

B: かなり病斑が見られ軽いスリコ症状を呈する

C: かなり見られる

D: 病斑がわずかに見られる

E: 病微なし

穂いもち

A: 穂首部が罹病し白穂になったもの又はこのためになんかなり不稔を起している

B: 穂首以外で一次枝梗以外が侵され枯死

E: A、B以外の穂数

紋枯病

A: 半数以上の茎が発病しほとんどが止葉から穂首まで侵され止葉が枯死の状態

B: 株の半数以上の茎が発病、病斑が止葉葉鞘まで達しているが止葉は生色である

C: 株の半数以上の茎が発病し大部分の病斑が第二葉鞘まで達している

D: 病斑が第三葉鞘まで達している

E: まったく発病を認めないまたは第四葉鞘以下の発病

縞葉枯病

A: 株のほとんどの茎が発病している

B: 株の2/3以上の茎が発病している

C: 株の1/3~2/3の茎が発病している

D: 株の1/3以下の茎が発病している

E: 発病が認められない

ばか苗病

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

もみ枯細菌病

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

稲こうじ病

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

病害	A	B	C	D	E	(記入方法)
葉いもち(25株)					✓	右記の調査基準に基づき該当する株数を記入
穂いもち病(5株) ※5株の中の穂数を記入	/	/	/	/	/	
紋枯病(25株)					✓	
縞葉枯病(25株)					✓	
ばか苗病(25株)					✓	
もみ枯細菌病(25株)					✓	
稲こうじ病(25株)					✓	
その他()						
特記事項	調査対象株以外で被害のある病害について病害名と発生の有無を記載 ウキクサあり					

虫害

すくいとり10回振	幼虫	成虫	種類名	合計
ヒメビウカ		1	/	1
セジロウカ		1	/	1
トビイロウカ			/	0
ツマグロヨコバイ	1		/	1
すくいとり10回振	幼虫	成虫	種類名	合計
斑点米カメムシ類		5		5
払い落とし10株	幼虫	成虫		合計
ヒメビウカ			/	0
セジロウカ			/	0
トビイロウカ			/	0
ツマグロヨコバイ			/	0
フタオビコヤガ(虫数)			/	0
見取り(25株)	虫数/つと数	被害株数		発生株率
ニカメイガ(被害株数)			/	0
イネミスゾウムシ(虫数)			/	0
イネツムシ(つと数)			/	0
コブノメイガ(つと数)			/	0
その他()			/	0
特記事項	上記以外で被害のある虫害について発生程度等を記載			

水稲病害虫発生予察調査報告野帳 (標準様式)

調査年月日: 7月5日

調査場所: 護持

作型: きぬむすめ ← ※早期・普通期又は品種名を記載

調査基準(病害)

葉いもち

A: 下葉は枯死し完全なスリコ症状

B: かなり病斑が見られ軽いスリコ症状を呈する

C: かなり見られる

D: 病斑がわずかに見られる

E: 病微なし

穂いもち

A: 穂首部が罹病し白穂になったもの又はこのためになんかなり不稔を起している

B: 穂首以外で一次枝梗以外が侵され枯死

E: A、B以外の穂数

紋枯病

A: 半数以上の茎が発病しほとんどが止葉から穂首まで侵され止葉が枯死の状態

B: 株の半数以上の茎が発病、病斑が止葉葉鞘まで達しているが止葉は生色である

C: 株の半数以上の茎が発病し大部分の病斑が第二葉鞘まで達している

D: 病斑が第三葉鞘まで達している

E: まったく発病を認めないまたは第四葉鞘以下の発病

縞葉枯病

A: 株のほとんどの茎が発病している

B: 株の2/3以上の茎が発病している

C: 株の1/3~2/3の茎が発病している

D: 株の1/3以下の茎が発病している

E: 発病が認められない

ばか苗病

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

もみ枯細菌病

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

病害	A	B	C	D	E	(記入方法)
葉いもち(25株)				✓		右記の調査基準に基づき該当する株数を記入
穂いもち病(5株) ※5株の中の穂数を記入						
紋枯病(25株)					✓	
縞葉枯病(25株)					✓	
ばか苗病(25株)					✓	
もみ枯細菌病(25株)					✓	
稲こうじ病(25株)					✓	
その他()						
特記事項	調査対象株以外で被害のある病害について病害名と発生の有無を記載					

虫害

すくいとり10回振	幼虫	成虫	種類名	合計
ヒメビウカ		1		1
セジロウカ		2		2
トビロウカ				0
ツマグロヨコバイ	7			7
すくいとり10回振	幼虫	成虫	種類名	合計
斑点米カメムシ類				0
払い落とし10株	幼虫	成虫		合計
ヒメビウカ				0
セジロウカ				0
トビロウカ				0
ツマグロヨコバイ				0
フタオビコヤガ(虫数)				0
見取り(25株)	虫数/つと数	被害株数		発生株率
ニカメイガ(被害株数)				0
イネミスゾウムシ(虫数)				0
イネツムシ(つと数)				0
コブノメイガ(つと数)				0
その他()				0
特記事項	上記以外で被害のある虫害について発生程度等を記載			

水稻病害虫発生予察調査報告野帳 (標準様式)

調査年月日: 7月5日

調査場所: 東柏尾

作型: コシヒカリ ← ※早期・普通期又は品種名を記載

調査基準(病害)

葉いもち

A: 下葉は枯死し完全なスリコ症状

B: かなり病斑が見られ軽いスリコ症状を呈する

C: かなり見られる

D: 病斑がわずかに見られる

E: 病微なし

穂いもち

A: 穂首部が罹病し白穂になったもの又はこのためになんかなり不稔を起している

B: 穂首以外で一次枝梗以外が侵され枯死

E: A、B以外の穂数

紋枯病

A: 半数以上の茎が発病しほとんどが止葉から穂首まで侵され止葉が枯死の状態

B: 株の半数以上の茎が発病、病斑が止葉葉鞘まで達しているが止葉は生色である

C: 株の半数以上の茎が発病し大部分の病斑が第二葉鞘まで達している

D: 病斑が第三葉鞘まで達している

E: まったく発病を認めないまたは第四葉鞘以下の発病

縞葉枯病

A: 株のほとんどの茎が発病している

B: 株の2/3以上の茎が発病している

C: 株の1/3~2/3の茎が発病している

D: 株の1/3以下の茎が発病している

E: 発病が認められない

ばか苗病

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

もみ枯細菌病

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

病害	A	B	C	D	E	(記入方法)
葉いもち(25株)					✓	右記の調査基準に基づき該当する株数を記入
穂いもち病(5株) ※5株の中の穂数を記入	/	/	/	/	/	
紋枯病(25株)					✓	
縞葉枯病(25株)					✓	
ばか苗病(25株)		/	/	/	✓	
もみ枯細菌病(25株)		/	/	/	✓	
稲こうじ病(25株)		/	/	/	✓	
その他()						
特記事項	調査対象株以外で被害のある病害について病害名と発生の有無を記載					

虫害

すくいとり10回振	幼虫	成虫	種類名	合計
ヒメビウカ			/	0
セジロウカ			/	0
トビイロウカ			/	0
ツマグロヨコバイ			/	0
すくいとり10回振	幼虫	成虫	種類名	合計
斑点米カメシ類				0
払い落とし10株	幼虫	成虫	種類名	合計
ヒメビウカ			/	0
セジロウカ			/	0
トビイロウカ			/	0
ツマグロヨコバイ			/	0
フタオビコヤガ(虫数)			/	0
見取り(25株)	虫数/つと数	被害株数		発生株率
ニカメイガ(被害株数)			/	0
イネミスゾウムシ(虫数)			/	0
イネツムシ(つと数)			/	0
コブノメイガ(つと数)			/	0
その他(ジャンボタニシ多い)			/	0
特記事項	上記以外で被害のある虫害について発生程度等を記載			

水稲病害虫発生予察調査報告野帳 (標準様式)

調査年月日: 7月5日

調査場所: 香呂

作型: きぬむすめ ← ※早期・普通期又は品種名を記載

調査基準(病害)

葉いもち

A: 下葉は枯死し完全なスリコ症状

B: かなり病斑が見られ軽いスリコ症状を呈する

C: かなり見られる

D: 病斑がわずかに見られる

E: 病微なし

穂いもち

A: 穂首部が罹病し白穂になったもの又はこのためになんかなり不稔を起している

B: 穂首以外で一次枝梗以外が侵され枯死

E: A、B以外の穂数

紋枯病

A: 半数以上の茎が発病しほとんどが止葉から穂首まで侵され止葉が枯死の状態

B: 株の半数以上の茎が発病、病斑が止葉葉鞘まで達しているが止葉は生色である

C: 株の半数以上の茎が発病し大部分の病斑が第二葉鞘まで達している

D: 病斑が第三葉鞘まで達している

E: まったく発病を認めないまたは第四葉鞘以下の発病

縞葉枯病

A: 株のほとんどの茎が発病している

B: 株の2/3以上の茎が発病している

C: 株の1/3~2/3の茎が発病している

D: 株の1/3以下の茎が発病している

E: 発病が認められない

ばか苗病

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

もみ枯細菌病

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

稲こうじ病

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

病害	A	B	C	D	E	(記入方法)
葉いもち(25株)					✓	右記の調査基準に基づき該当する株数を記入
穂いもち病(5株) ※5株の中の穂数を記入	/	/	/	/	/	
紋枯病(25株)					✓	
縞葉枯病(25株)					✓	
ばか苗病(25株)		/	/	/	✓	
もみ枯細菌病(25株)		/	/	/	✓	
稲こうじ病(25株)		/	/	/	✓	
その他()						
特記事項	調査対象株以外で被害のある病害について病害名と発生の有無を記載					

虫害

すくいとり10回振	幼虫	成虫	種類名	合計
ヒメビウカ			/	0
セジロウカ			/	0
トビイロウカ			/	0
ツマグロヨコバイ			/	0
すくいとり10回振	幼虫	成虫	種類名	合計
斑点米カメムシ類				0
払い落とし10株	幼虫	成虫	種類名	合計
ヒメビウカ			/	0
セジロウカ			/	0
トビイロウカ			/	0
ツマグロヨコバイ			/	0
フタオビコヤガ(虫数)			/	0
見取り(25株)	虫数/つと数	被害株数		発生株率
ニカメイガ(被害株数)			/	0
イネミスゾウムシ(虫数)			/	0
イネツムシ(つと数)			/	0
コブノメイガ(つと数)			/	0
その他()			/	0
特記事項	上記以外で被害のある虫害について発生程度等を記載 ジャンボタニシ・ジャンボタニシの卵あり			

水稲病害虫発生予察調査報告野帳 (標準様式)

調査年月日: 7月5日

調査場所: 溝口

作型: キヌヒカリ ← ※早期・普通期又は品種名を記載

調査基準(病害)

葉いもち

A: 下葉は枯死し完全なスリコシ症状

B: かなり病斑が見られ軽いスリコシ症状を呈する

C: かなり見られる

D: 病斑がわずかに見られる

E: 病微なし

穂いもち

A: 穂首部が罹病し白穂になったもの又はこのためになんかなり不稔を起している

B: 穂首以外で一次枝梗以外が侵され枯死

E: A、B以外の穂数

紋枯病

A: 半数以上の茎が発病しほとんどが止葉から穂首まで侵され止葉が枯死の状態

B: 株の半数以上の茎が発病、病斑が止葉葉鞘まで達しているが止葉は生色である

C: 株の半数以上の茎が発病し大部分の病斑が第二葉鞘まで達している

D: 病斑が第三葉鞘まで達している

E: まったく発病を認めないまたは第四葉鞘以下の発病

縞葉枯病

A: 株のほとんどの茎が発病している

B: 株の2/3以上の茎が発病している

C: 株の1/3~2/3の茎が発病している

D: 株の1/3以下の茎が発病している

E: 発病が認められない

ばか苗病

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

もみ枯細菌病

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

病害	A	B	C	D	E	(記入方法)
葉いもち(25株)					✓	右記の調査基準に基づき該当する株数を記入
穂いもち病(5株) ※5株の中の穂数を記入	/	/	/	/	/	
紋枯病(25株)					✓	
縞葉枯病(25株)					✓	
ばか苗病(25株)		/	/	/	✓	
もみ枯細菌病(25株)		/	/	/	✓	
稲こうじ病(25株)		/	/	/	✓	
その他()						
特記事項	調査対象株以外で被害のある病害について病害名と発生の有無を記載 ウキクサあり					

虫害

すくいとり10回振	幼虫	成虫	種類名	合計
ヒメビウカ			/	0
セジロウカ			/	0
トビイロウカ			/	0
ツマグロヨコバイ			/	0
すくいとり10回振	幼虫	成虫	種類名	合計
斑点米カメムシ類				0
払い落とし10株	幼虫	成虫	種類名	合計
ヒメビウカ			/	0
セジロウカ			/	0
トビイロウカ			/	0
ツマグロヨコバイ			/	0
フタオビコヤガ(虫数)			/	0
見取り(25株)	虫数/つと数	被害株数		発生株率
ニカメイガ(被害株数)			/	0
イネミスゾウムシ(虫数)			/	0
イネツムシ(つと数)			/	0
コブノメイガ(つと数)			/	0
その他()			/	0
特記事項	上記以外で被害のある虫害について発生程度等を記載			

水稲病害虫発生予察調査報告野帳 (標準様式)

調査年月日: 7月5日
 調査場所: 鍛冶
 作型: コシヒカリ

← ※早期・普通期又は品種名を記載

調査基準(病害)

葉いもち

A: 下葉は枯死し完全なスリコ症状を呈する

B: かなり病斑が見られ軽いスリコ症状を呈する

C: かなり見られる

D: 病斑がわずかに見られる

E: 病微なし

穂いもち

A: 穂首部が罹病し白穂になったもの又はこのためになんかなり不稔を起している

B: 穂首以外で一次枝梗以外が侵され枯死

E: A、B以外の穂数

紋枯病

A: 半数以上の茎が発病しほとんどが止葉から穂首まで侵され止葉が枯死の状態

B: 株の半数以上の茎が発病、病斑が止葉葉鞘まで達しているが止葉は生色である

C: 株の半数以上の茎が発病し大部分の病斑が第二葉鞘まで達している

D: 病斑が第三葉鞘まで達している

E: まったく発病を認めないまたは第四葉鞘以下の発病

縞葉枯病

A: 株のほとんどの茎が発病している

B: 株の2/3以上の茎が発病している

C: 株の1/3~2/3の茎が発病している

D: 株の1/3以下の茎が発病している

E: 発病が認められない

ばか苗病

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

もみ枯細菌病

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

病害	A	B	C	D	E	(記入方法)
葉いもち(25株)					✓	右記の調査基準に基づき該当する株数を記入
穂いもち病(5株) ※5株の中の穂数を記入	/	/	/	/	/	
紋枯病(25株)					✓	
縞葉枯病(25株)					✓	
ばか苗病(25株)		/	/	/	✓	
もみ枯細菌病(25株)		/	/	/	✓	
稲こうじ病(25株)		/	/	/	✓	
その他()						
特記事項	調査対象株以外で被害のある病害について病害名と発生の有無を記載					

虫害

すくいとり10回振	幼虫	成虫	種類名	合計
ヒメビウカ			/	0
セジロウカ			/	0
トビイロウカ			/	0
ツマグロヨコバイ			/	0
すくいとり10回振	幼虫	成虫	種類名	合計
斑点米カメムシ類				0
払い落とし10株	幼虫	成虫		合計
ヒメビウカ	1		/	1
セジロウカ	2		/	2
トビイロウカ			/	0
ツマグロヨコバイ			/	0
フタオビコヤガ(虫数)			/	0
見取り(25株)	虫数/つと数	被害株数		発生株率
ニカメイガ(被害株数)			/	0
イネミスゾウムシ(虫数)			/	0
イネツムシ(つと数)			/	0
コブノメイガ(つと数)			/	0
その他()			/	0
特記事項	上記以外で被害のある虫害について発生程度等を記載			

水稻病害虫発生予察調査報告野帳 (標準様式)

調査年月日: 7月5日

調査場所: 鶴居

作型: コシヒカリ ← ※早期・普通期又は品種名を記載

調査基準(病害)

葉いもち

A: 下葉は枯死し完全なスリコ症状

B: かなり病斑が見られ軽いスリコ症状を呈する

C: かなり見られる

D: 病斑がわずかに見られる

E: 病微なし

穂いもち

A: 穂首部が罹病し白穂になったもの又はこのためになんかなり不稔を起している

B: 穂首以外で一次枝梗以外が侵され枯死

E: A、B以外の穂数

紋枯病

A: 半数以上の茎が発病しほとんどが止葉から穂首まで侵され止葉が枯死の状態

B: 株の半数以上の茎が発病、病斑が止葉葉鞘まで達しているが止葉は生色である

C: 株の半数以上の茎が発病し大部分の病斑が第二葉鞘まで達している

D: 病斑が第三葉鞘まで達している

E: まったく発病を認めないまたは第四葉鞘以下の発病

縞葉枯病

A: 株のほとんどの茎が発病している

B: 株の2/3以上の茎が発病している

C: 株の1/3~2/3の茎が発病している

D: 株の1/3以下の茎が発病している

E: 発病が認められない

ばか苗病

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

もみ枯細菌病

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

病害	A	B	C	D	E	(記入方法)
葉いもち(25株)				✓		右記の調査基準に基づき該当する株数を記入
穂いもち病(5株) ※5株の中の穂数を記入						
紋枯病(25株)					✓	
縞葉枯病(25株)					✓	
ばか苗病(25株)					✓	
もみ枯細菌病(25株)					✓	
稲こうじ病(25株)					✓	
その他()						
特記事項	調査対象株以外で被害のある病害について病害名と発生の有無を記載					

虫害

すくいとり10回振	幼虫	成虫	種類名	合計
ヒメビウカ				0
セジロウカ				0
トビイロウカ				0
ツマグロヨコバイ				0
すくいとり10回振	幼虫	成虫	種類名	合計
斑点米カメムシ類				0
払い落とし10株	幼虫	成虫		合計
ヒメビウカ				0
セジロウカ	3			3
トビイロウカ				0
ツマグロヨコバイ	1			1
フタオビコヤガ(虫数)				0
見取り(25株)	虫数/つと数	被害株数		発生株率
ニカメイガ(被害株数)				0
イネミスゾウムシ(虫数)				0
イネツムシ(つと数)				0
コブノメイガ(つと数)				0
その他()				0
特記事項	上記以外で被害のある虫害について発生程度等を記載 イナゴが少しいる			

水稲病害虫発生予察調査報告野帳 (標準様式)

調査年月日: 7月5日

調査場所: 西田中

作型: キヌヒカリ ← ※早期・普通期又は品種名を記載

調査基準(病害)

葉いもち

A: 下葉は枯死し完全なスリコ症状

B: かなり病斑が見られ軽いスリコ症状を呈する

C: かなり見られる

D: 病斑がわずかに見られる

E: 病微なし

穂いもち

A: 穂首部が罹病し白穂になったもの又はこのためによりかなり不稔を起している

B: 穂首以外で一次枝梗以外が侵され枯死

E: A、B以外の穂数

紋枯病

A: 半数以上の茎が発病しほとんどが止葉から穂首まで侵され止葉が枯死の状態

B: 株の半数以上の茎が発病、病斑が止葉葉鞘まで達しているが止葉は生色である

C: 株の半数以上の茎が発病し大部分の病斑が第二葉鞘まで達している

D: 病斑が第三葉鞘まで達している

E: まったく発病を認めないまたは第四葉鞘以下の発病

縞葉枯病

A: 株のほとんどの茎が発病している

B: 株の2/3以上の茎が発病している

C: 株の1/3~2/3の茎が発病している

D: 株の1/3以下の茎が発病している

E: 発病が認められない

ばか苗病

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

もみ枯細菌病

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

病害	A	B	C	D	E	(記入方法)
葉いもち(25株)					✓	右記の調査基準に基づき該当する株数を記入
穂いもち病(5株) ※5株の中の穂数を記入	/	/	/	/	/	
紋枯病(25株)					✓	
縞葉枯病(25株)					✓	
ばか苗病(25株)		/	/	/	✓	
もみ枯細菌病(25株)		/	/	/	✓	
稲こうじ病(25株)		/	/	/	✓	
その他()						
特記事項	調査対象株以外で被害のある病害について病害名と発生の有無を記載					

虫害

すくいとり10回振	幼虫	成虫	種類名	合計
ヒメビウカ			/	0
セジロウカ			/	0
トビイロウカ			/	0
ツマグロヨコバイ			/	0
すくいとり10回振	幼虫	成虫	種類名	合計
斑点米カメムシ類				0
払い落とし10株	幼虫	成虫	種類名	合計
ヒメビウカ	1		/	1
セジロウカ	1		/	1
トビイロウカ			/	0
ツマグロヨコバイ			/	0
フタオビコヤガ(虫数)			/	0
見取り(25株)	虫数/つと数	被害株数	発生株率	
ニカメイガ(被害株数)			/	0
イネミスゾウムシ(虫数)			/	0
イネツムシ(つと数)			/	0
コブノメイガ(つと数)			/	0
その他()			/	0
特記事項	上記以外で被害のある虫害について発生程度等を記載 イナゴが少しいる			

水稲病害虫発生予察調査報告野帳 (標準様式)

調査年月日: 7月5日

調査場所: 長目

作型: きぬむすめ ← ※早期・普通期又は品種名を記載

調査基準(病害)

葉いもち

A: 下葉は枯死し完全なスリコ症状

B: かなり病斑が見られ軽いスリコ症状を呈する

C: かなり見られる

D: 病斑がわずかに見られる

E: 病微なし

穂いもち

A: 穂首部が罹病し白穂になったもの又はこのためによりかなり不稔を起している

B: 穂首以外で一次枝梗以外が侵され枯死

E: A、B以外の穂数

紋枯病

A: 半数以上の茎が発病しほとんどが止葉から穂首まで侵され止葉が枯死の状態

B: 株の半数以上の茎が発病、病斑が止葉葉鞘まで達しているが止葉は生色である

C: 株の半数以上の茎が発病し大部分の病斑が第二葉鞘まで達している

D: 病斑が第三葉鞘まで達している

E: まったく発病を認めないまたは第四葉鞘以下の発病

縞葉枯病

A: 株のほとんどの茎が発病している

B: 株の2/3以上の茎が発病している

C: 株の1/3~2/3の茎が発病している

D: 株の1/3以下の茎が発病している

E: 発病が認められない

ばか苗病

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

もみ枯

A: 発生がみられる

E: 発生が見られない

細菌病

稲こうじ病

病害	A	B	C	D	E	(記入方法)
葉いもち(25株)					✓	右記の調査基準に基づき該当する株数を記入
穂いもち病(5株) ※5株の中の穂数を記入	/	/	/	/	/	
紋枯病(25株)					✓	
縞葉枯病(25株)					✓	
ばか苗病(25株)		/	/	/	✓	
もみ枯細菌病(25株)		/	/	/	✓	
稲こうじ病(25株)		/	/	/	✓	
その他()						
特記事項	調査対象株以外で被害のある病害について病害名と発生の有無を記載					

虫害

すくいとり10回振	幼虫	成虫	種類名	合計
ヒメビウカ		2	/	2
セジロウカ		3	/	3
トビロウカ			/	0
ツマグロヨコバイ			/	0
すくいとり10回振	幼虫	成虫	種類名	合計
斑点米カメムシ類		1		1
払い落とし10株	幼虫	成虫		合計
ヒメビウカ			/	0
セジロウカ			/	0
トビロウカ			/	0
ツマグロヨコバイ			/	0
フタオビコヤガ(虫数)			/	0
見取り(25株)	虫数/つと数	被害株数		発生株率
ニカメイガ(被害株数)			/	0
イネミスゾウムシ(虫数)			/	0
イネツムシ(つと数)			/	0
コブノメイガ(つと数)			/	0
その他()			/	0
特記事項	上記以外で被害のある虫害について発生程度等を記載			